

第3章 学習指導案の作成

第1節 学習指導案作成の意義

学習指導案は、年間指導計画や単元計画を更に具体化した一単位時間の計画であり、単元計画を踏まえて、一単位時間に何を学ぶのか、どのような学習活動を通して学ぶのか、何ができるようになるのか、児童生徒一人一人にどのように指導・支援をするのか等を具体的に示したものである。また、研究授業等において学習指導案を基に参観者も授業改善に参画することによって、PDCAサイクルで授業毎・単元毎に授業の見直しを行い、年間指導計画や単元計画、個別の指導計画等と関連付けながらカリキュラム・マネジメントが活発に行われるようにするための役割をも担っている。

第2節 学習指導案及び学習指導略案の形式

学習指導案は、授業を行う教師一人一人が創意工夫して作成するものであり、授業形態等により形式は異なるが、本県における基本的な形式として以下のとおり示す。ただし、この形式のとおりにしなければならないというものではなく、授業づくりにおいてこの形式を参考にしながら創意工夫し、授業者の考える授業の実現を図ること。

1 学習指導案の作成と作成上の留意点

(1) 表題

ア 視覚障害、聴覚障害、病弱、肢体不自由特別支援学校の各教科等の例

・〇〇部〇年〇組 〇〇科 学習指導案

イ 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校及び視覚障害、聴覚障害、病弱、肢体不自由特別支援学校で知的障害を併せ有する児童又は生徒に対して各教科等を扱う場合の例

・〇〇部〇年〇組 教科別の指導「〇〇」 学習指導案

・〇〇部〇〇グループ 遊びの指導 学習指導案

・〇〇部〇〇班 作業学習 学習指導案

・〇〇部〇年〇組 自立活動 学習指導案

(2) 日時・場所、指導者等

複数の指導者がいる場合には、(T1)(T2)等の記号を付け、展開等で指導・支援する担当が明らかな場合には、その記号で示す。

(3) 単元名(題材名又は主題名)

単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのことであり、単元の構成は、教育課程編成の一環として行われる。教科書を含む教材の章立て等も、こうした単元の構成をイメージしながら構成されている。また、単元ではなく題材といった呼び方をする場合や、単元の内容のまとまりの大きさに応じて、大単元、小単元といった呼び方を用いる場合等もある。従来、単元については、実生活に起こる問題を解決する経験のまとまりを内容とする経験単元と、科学・学問の基礎を子供の発達過程に即して体系的に教えようとする教材単元という二つの考え方が提起されてきた。現在、各学校において実施されている単元については、各教科等の系統的な内容を扱いつつ、その中での学習のまとまりを子供にとって意味ある学びにしようとする様々な工夫が展開されている。

題材とは、教科における系統性を背景にもった学習活動の材料であり、単元を構成する一つの要素をさす。ただし、題材は単元の一要素ではあるが、題材学習は単元化された学び(単元学習)の一部分ではなく、一つ一つの学びの材料を取り上げ、その材料との関わりを通して知識及び技能等の資質・能力の育成を目指す学びの目標及び内容等を計画するものである。

主題とは、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。そのため、特別の教科「道徳」については「主題名」を用いることが一般的であり、個々の児童生徒のねらいを達成するために指導内容を作成する自立活動

についても、用いることができる。

指導案作成にあたり、「単元名」又は「題材名」を使うのか、「主題名」を使うのかについては、学習内容と指導計画に応じて選択することになる。具体については、指導案の例示を参考のこと。

単元名（題材名又は主題名）については、活動する事柄の内容を要約し、児童生徒の理解しやすい言葉を用い、学習活動の内容がある程度想像できるような表現で記述する。

(4) 単元(題材又は主題)設定の理由

「このような実態の児童生徒に対して」、「このような学習を設定し」、「このように指導する」という流れで記述していく。

ア 児童(生徒)観

主に児童生徒の実態（学習集団の構成や障害特性、課題等）について記述する。児童生徒の表面上の困難さを捉えるのではなく、その困難さの背景（障害の状態及び特性、発達の様子などから生じている要因）に着目し、課題の本質に迫ることで以下の単元(題材又は主題)観や指導観につなげていく。また、単元(題材又は主題)におけるこれまでの児童生徒の学びの経過にも触れ、できるようになったことや効果的だった指導方法、児童生徒の強みについても記述し、児童生徒のよさを生かした単元観や指導観につなげるようにする。

イ 単元(題材又は主題)観

取り上げた単元(題材又は主題)の意義や特徴、単元(題材又は主題)に対する考え方、単元(題材又は主題)のねらいを明確に記述する。児童生徒の課題の本質に対してなぜその単元(題材又は主題)を取り上げ、困難さにどう迫っていくかを示す。その際、学習指導要領の目標及び内容との関連を明記することが望ましい。また、各教科等を合わせて指導を行う場合は、学習指導要領における、どの段階のどの内容を関連付けているのかを明記するとともに、児童生徒の実態に応じて、各教科等の目標及び内容を踏まえた上で、個々の生活に根ざした目標及び内容についても明記する。(各教科の目標及び内容では表せない個に応じた目標及び内容) これらのことを踏まえ、単元(題材又は主題)を通して、児童生徒の学習又は生活において、どのような効果を期待できるのか説明できるとよい。

ウ 指導観

児童生徒の実態、単元(題材又は主題)観との関連から、指導・支援の手立てや配慮事項等を明らかにする。また、次にどのような課題や学習内容につながっていくのか、将来の展望を踏まえながら発展的にまとめる。

(5) 児童生徒の実態

児童生徒名はA、B、C…のように記号で表し、実態は「○○ができる」、「○○の支援で○○ができる」、「○○の支援で○○ができつつある」など、肯定的な表現で記述する。生活全般の実態を書く場合は、授業に関わる事項に精選する。

(6) 単元(題材又は主題)の目標

単元計画を基に、教師の側から見て単元(題材又は主題)全体を通して期待される児童生徒の変容について、共通する到達目標との個々の到達目標を記述する。その際、単元(題材又は主題)全体を通して、最終的には育成を目指す資質・能力がバランスよく網羅されることが望ましい。また、「目標達成に向けての配慮事項」を併記してもよい。

記入例：○○が分かるようにする。○○ができるようにする。

(7) 指導計画

単元全体の中の指導過程をいくつかに分けて記述する。その際、本時の授業が全体の中でどの位置にあるのか、時数を分数によって明記する。

記入例：○○について調べよう・・・1時間

○○へ行こう・・・・・・・・・・2時間（本時2／2時間）

○○を作ろう・・・・・・・・・・2時間

(8) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

今回の学習指導要領の改訂において、「何ができるようになるか」という視点で育成を目指す資質・能力が示された。これらの資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」として示されたのが、主体的・対話的で深い学びという授業改善の視点である。

ここでは学習集団の実態を踏まえた上で、単元や題材などの時間的なまとまりの中で「主体的

な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」についてどのように考え、学習場面を設定し、どのような指導・支援の手立てを講じるのか等について記述する。

なお、この項目は（４）のウ「指導観」の内容と重なるが、指導計画全体を踏まえ、これらの視点を通して授業づくりをすることで、育成を目指す資質・能力について指導計画を立て、実践し、評価を行い、授業の質の向上を図ることを目的としている。

自立活動に関しては資質・能力の育成を目指すものではないことから、自立活動の学習指導案を作成する際には、この項目は記述しないことに留意する必要がある。

（9）本時の構成

ア 本時の目標

- ・ 育成を目指す資質・能力の三つの観点から必要な観点を選択し、この授業で何をを目指すのか明確にした目標を設定する。
- ・ 児童生徒主体の文言で記入する。
- ・ 課題は一人一人違うため、目標も一人一人異なることが望ましい。
- ・ 目標は高過ぎても低過ぎても児童生徒の学習意欲を低下させてしまうため、少し頑張れば達成できる一歩先の目標の設定が望ましい。
- ・ 授業者によって評価が異なってしまうことを避けるために目標は抽象的な表現を避け、目で見て評価できるような客観的かつ具体的なものにする。

抽象的な目標の例	具体的な目標の例
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○○を意識する、感じる、気付くことができる。 ・ 落ち着いて活動することができる。 ・ ○○について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○○で感じたことを絵や文、発言、身体表現等で伝えることができる。 ・ 決められた時間は椅子に座り、注目し、最後まで活動をやり通すことができる。 ・ ○○について自分で考え、判断し、表現することができる。

イ 展開

- ・ 学習内容は、児童生徒主体の文言で時系列に順序立てて記述する。
- ・ 指導・支援の手立て及び指導上の留意点は、教師主体の文言で記述する。
- ・ 書式を工夫して上記の内容を記述する。
- ・ 授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）について、一単位時間内に該当する場合には記述することが望ましい。

（10）本時の評価

授業毎の評価、見直しが活発に行われるよう日常的に授業者同士や参観者でやりとりをし、PDCAサイクルによる授業改善に役立てるものとする。その時「(1)児童生徒の学習評価」に関しては観点別学習状況の評価として「学力の三要素」をもって記入し、「(2)教師の指導評価」に関しては主体的・対話的で深い学びの観点をもって記入することに留意する。その際、学習指導要領解説にも示されているとおり、育成を目指す資質・能力や主体的・対話的で深い学びは一単位時間の授業で成果を出せるものではないことを踏まえ、本時は形成的評価として、評価の内容は次回の授業や単元(題材又は主題)に生かし、授業毎・単元毎に評価、見直しを行う。最終的には、総括的评价として単元計画や年間指導計画、個別の指導計画と関連付けてカリキュラム・マネジメントが円滑に行われるよう心掛けることが大切である。そのためにも各校において単元(題材又は主題)のまとめ等で授業を振り返り評価する機会を組織的・計画的に設けることが望ましい。

評価の具体については、指導案の例示を参照のこと。

ア 児童生徒の学習評価

記入例：感想発表等で身に付けた知識について振り返ることができたか。(知識・技能)

○○が分かり(知識)、～することができる(技能)ようになったかなどを評価する。

前回までに身につけた技術を活かしながら活動できていたか。(思考・判断・表現)
 選ぶことができた、工夫していた等、自分なりに考えて、判断し、表現するなどの様子を評価する。

意欲的に活動に参加していたか。(主体的に学習に取り組む態度)

学習に取り組む姿や興味・関心・意欲など、態度に関する様子を評価する。

イ 教師の授業評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)

(7) 授業構成(指導手順、時間配当、指導形態等)について

記入例：見通しをもつための手立てをどのように講じたか、授業の終わりに振り返る場面を設定するなど、児童生徒の主体的な学びにつなげることができていたか。(主体的な学び)

他者とのやりとりや教材教具の活用を通して、前回よりも児童生徒の考えや行動が広がり深まるような場面を設定できたか。(対話的な学び)

授業で学んだことを他の授業や日常生活で役立てている様子が見られたか。(深い学び)

(8) 教師による支援(環境設定、教材教具の工夫等)について

記入例：児童生徒は授業を進めるに当たって教材を十分に活用できていたか。(主体的な学び)

児童生徒が活動の中で仲間や教師と関わったり協力したりする場面を設定できていたか。(対話的な学び)

児童生徒にとって現在及び将来の生活につながる内容で学習計画を設定できたか。

また、学んだことの楽しさ、価値や意義に気づくための問いかけや仕掛けを工夫できたか。(深い学び)

ウ 自由記述

直接授業に関係ないこと(ねらいに関して他にどんな授業が考えられるか、地域資源や教材等のアイデアなど)も含めて自由に記述する。授業改善及び授業力の向上を目的とし、活発なやりとりを期待するものである。

2 学習指導案の形式例

※各教科を行う場合の表記

『○○科学習指導案』（視覚、聴覚、病弱、肢体不自由特別支援学校で各教科を取り扱う場合）

『教科別の指導「○○」学習指導案』（知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校及び視覚障害、聴覚障害、病弱、肢体不自由特別支援学校で知的障害を併せ有する児童又は生徒に対して各教科を取り扱う場合）

○○部○年○組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和○○年○月○日（○曜日）

第○時 ○○：○○～○○：○○

場 所 ○○○○

指導者 ○○ ○○(T1) ○○ ○○(T2)

単元…各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのことである。

題材…教科における系統性を背景にもった学習活動の材料であり、単元を構成する一つの要素をさす。

主題…指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。（道徳や自立活動は一般的に主題を用いる。）

単元、題材、主題のいずれを用いるかは、上記のことを踏まえて授業者が判断する。

1 単元名（題材名又は主題名） 「○○○○○○○○○○」

2 単元（題材又は主題）設定の理由

- ・このような実態の児童生徒に対して（児童生徒観）
- ・このような学習を設定し（単元観、題材観、主題観）
- ・このように指導する（指導観）

・児童（生徒）観

学習集団の構成や障害特性、単元（題材又は主題）に対する興味・関心及び経験等について記述する。その際、児童生徒の表面上の困難さを捉えるのではなく、その困難さの背景に着目し、課題の本質に迫るとともに、これまでの児童生徒の学びの経過から、児童生徒の強みについても触れ、児童生徒のよさを生かした単元観や指導観につなげるようにする。

・単元（題材又は主題）観

児童生徒の実態を受けて本単元を設定した意義や単元の特徴、ねらい及びねらいに基づく学習活動等を明確に記述する。その際、各教科等を合わせて指導を行う場合も含め、学習指導要領における、どの段階のどの内容と関連付いているのかを明記することが望ましい。

・指導観

児童生徒の実態や単元観との関連から、指導・支援の手立てなどを明らかにする。また、次にどのような課題や学習活動につながっていくのかを発展的にまとめる。

3 児童生徒の実態

氏名(記号)	生活全般の実態	単元(題材又は主題)に関する実態
A		
B		

4 単元(題材又は主題)の目標

(1) 共通目標

①

②

(2) 個人目標

単元計画で設定した目標を転記する。

氏名(記号)	単元(題材又は主題)に関する目標	教育支援プランBの目標
A		
B		

5 指導計画

	活動内容	授業時数
1		〇〇時間
2		〇〇時間(本時〇/〇)

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

学習指導要領の改訂で求められる資質・能力を育成するために、授業づくりをする上で工夫している取組について、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で記述する。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

三つの観点のうち、本時に必要な観点を選択する。最終的には単元を通して三つの観点をバランスよく育てることができるようする。

	本時に関する目標	
共通目標	○	(知識及び技能)
	○	(思考力、判断力、表現力等)
	○	(学びに向かう力、人間性等)
A	○	(知識及び技能)
	○	(思考力、判断力、表現力等)
	○	(学びに向かう力、人間性等)
B		

(2) 展開

- ・ 課題が一人一人違うため目標も一人一人異なるものが望ましい。
- ・ 明確な評価ができるようにするため、客観的かつ具体的な表現であること。

配時	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
〇分		例) ~などの支援を行う。(A、B、C)	
〇分			

8 本時の評価

(1) 児童生徒の学習評価

A	
B	

・観点別学習状況の評価として学力の三要素で評価する。
 ・本時の目標に対する評価を基本としつつ、児童生徒の様子や変化を客観的・総合的に評価する。

・主体的・対話的で深い学びの観点で評価する。
 ・「(1)児童生徒の学習評価」に基づいて、「(2)教師の指導の評価」を行う。
 ・指導と評価の一体化に留意し、次の授業の改善や教育課程の見直しに活かしていくこと。

(2) 教師の指導の評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)

ア 授業構成(指導手順、時間配当、指導形態等)について

- ・
- ・

イ 教師による支援(環境設定、教材教具の工夫等)について

- ・
- ・

ウ 自由記述(授業について気付いたことがありましたら記入の上、T1に提出してください。)

記入例：ねらいに対して他にどのような活動が考えられるか、地域資源や教材のアイデア等。

9 備考 (配置図、準備物、教材、参考資料等)

3 学習指導略案の作成と作成上の留意点

(1)表題…本案同様。

(2)日時…本案同様。

(3)場所…本案同様。

(4)単元(題材又は主題)設定の理由

指導略案であっても設定の理由を明確に示すことで、授業者が授業の特徴やねらいを共有できるように明記する。

(5)指導計画

カリキュラム・マネジメントの観点から、指導略案であっても単元(題材又は主題)全体の流れを授業者が共有できるようにする。

(6)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点…本案同様。

(7)本時の目標…本案同様。

(8)本時の展開

一時間の流れや児童生徒への指導・支援の手立て、配慮事項等を簡潔に示す。

(9)準備物

授業に必要な教材や資料等を記述する。

(10)本時の評価…本案同様。

4 学習指導略案の形式例

〇〇部〇年〇組 教科別の指導「〇〇」 学習指導略案

- 1 単元名(題材名・主題名) 「〇〇〇〇〇〇〇〇」
- 2 日 時 令和〇〇年〇月〇日(〇曜日) 第〇校時 〇:〇〇~〇:〇〇
- 3 場 所 〇〇部〇年〇組教室

4 単元(題材・主題)設定の理由
(授業を設定した理由を単元観や指導観と関連付けて簡潔に示す)

- 5 指導計画(全〇時間扱い)
 - (1)〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇時間
 - (2)〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇時間(本時〇/〇時間)

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点
授業づくりで工夫している取組について、主体的・対話的で深い学びの視点で記述する。

- 7 本時の目標
 - ・ ※三つの観点のうち、必要な観点を選択する。
 - ・ (知識及び技能)
 - ・ (思考力、判断力、表現力等)
 - ・ (学びに向かう力、人間性等)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
〇分			

9 準備物

- 10 本時の評価
 - (1) 児童生徒の学習評価
 - ・ ※観点別学習状況の評価として学力の三要素をもって評価する。
 - ・
 - (2) 教師の指導評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)
 - ・
 - ・ ※主体的・対話的で深い学びの観点をもって評価する。

※以下は授業終了後に各授業者や参観者が記入し、T1へ提出してもよい。

(3) 自由記述(授業について気付いたことがありましたら記入の上、別紙又は切り取ってT1に提出してください。)

記入例：ねらいに対して他にどのような活動が考えられるか、地域資源や教材のアイデア等。